

東京歯科大学同窓会会報

東京都千代田区神田
三崎町一ノ七

発行所

東京歯科大学同窓会

編集人 関根 永滋

発行人 電話 九段(33)8446 (代)

菊薫る文化の日

第六十五回

総会開催さる

役員改選 新会頭に河村弘氏就任

例年の如く、十一月三日、母校において、本年第六十五回総会が開催された。
総会前日の二日(月)午後二時より、同じく母校において全国支部長会が開催され、遠隔の支部よりも多数の代表者が出席した。

就任に際して

会頭 河村 弘



このたびの計に計らずも全国支部長会に於て本会会頭に御推挙を戴き、その重責を担うに至りました事は私

にとりましてこの上もなき光栄であり全く感激に堪えないところであります。もとより一介の野人浅学非才にして不敏到底その器ではなく、特にこの極めて重大なる時局に際し果して重任を全うし得るや否や不安を感じざるを得ません。
しかしながら内にあつては母校教職員各位並に役員諸君の温き御協力を得られ外に於ては八千の同窓諸君の熱意ある御支援を賜るのれば茲に時代に生きた真に吾等の親しき同窓会への進歩に幾分とも添ひ得るのではないかと考える次第であります。

続いて、役員改選の任期満了に伴う改選の件が上程され、かねてより辞意を表明されていた西村会頭の退任に関する御希望に關しては、会頭の御事情を諒し、数役員の出選が行われた。
新役員の出選に關し、詮議委員会が設けられ、慎重審議の結果、次期会頭に河村弘氏を推すこととなり、副会頭に片山清一氏(大阪)田丸将士氏(東京)荻原義雄氏(福島)の三氏が選出された。幹事ならびに会計監事の選出に對し、新会頭ならびに副会頭を加えた詮議委員会が設けられた。
三日、午前十時より総会が開催され、全国より多数会員の御来会を得た。別掲の報告並びに議事に對し、それぞれ可決承認の後、支部長会の報告が行われ、満場の拍手のうちに河村新会頭登壇、力強い就任の挨拶を述べられた。続いて血脈賞授賞が行われ、保存学講師森本優君に榮えります。

今や母校は全国同窓の崇高なる母校愛による血と汗の御協力により大学院建設の一大事業も一応達成せられました。未だ完遂の域には達していません、しかも今後の母校の発展興隆は同窓会との更に一層の密なる連繫を益々必要とするのであります。これがためには同窓会自体が同窓生各自の同窓生のための母校と共に生きる、もつと温みのあるものと親しみのある強い強い吾等の同窓会とならなければならぬ事を痛感せずにはおられません。
私は榎本、西村両前会頭が本会にはられた偉業達成の御努力に對し萬端の敬意と感謝を表するものであります。今後この偉業を恥かきめなない様より一倍の熱意と誠意と努力

をつくして伝統に輝く血脈精神の生き生きとした明るい同窓会とし、また運當面に於ても同窓生各位の心からの声をあくまでも尊重し、この声を基盤として立つ民主的にして且つ時代即応した強い吾等の同窓会に育て上げて行きたいと念願してやまない次第であります。
然しながら吾等の行手には種々たる難関が手をひらけております、しかしこれらを突破するには果敢なる勇氣と同窓各位の一致となつた団結の力以外にはありません。
本会の目的は会員相互の親睦共済並に齒科医学と医療面の研究発展をはかるには勿論であります。が、他面医療面、社会面における活躍に對し日頃の研究を助長しかく同窓会会員の社会的地位の向上に本来の

ををつくして伝統に輝く血脈精神の生き生きとした明るい同窓会とし、また運當面に於ても同窓生各位の心からの声をあくまでも尊重し、この声を基盤として立つ民主的にして且つ時代即応した強い吾等の同窓会に育て上げて行きたいと念願してやまない次第であります。

最後、「ハイスピードエンジン」と題する座談会も、講師陣に正木正教授の参加を得て、満場の拍手裡に終了した。

さらに支部長会、評議員会を強力なものとし委員会制の活発なる運用により会務、事業の円満なる進歩を期して本会の経済的基礎の確立を果さねばなりません。
なお学校との関係改善には一歩を進め他校(内、外国)との交流には力を致し親善関係をより密に致したものと存じます。どうか同窓会各位の格段なる御支援と御鞭撻を相賜りますよう切にお願い申し上げます。私の就任の御挨拶と致します。

福島学長より母校の近況報告を兼ねた挨拶があつて午前四時半を過ぎた。午後の講演は先づ竹内光春教授の「WHOセミナー」とニュージランド歯科衛生」と題する講演が行われた。美しい数々の写真と、ニュージランドの学校衛生の素晴らしい現状に對し「我々の住む地球上にこんな立派な仕事をやり遂げたい国が現実にあるのを見て心を打たれた」と涙を浮かべての講演に参会者一同大きな感銘を受けた。
続いて木下隆治教授の「社会保障下の歯科医療の動向」と題する講演も同教授の該博な学識と、多数の資料により時間の少ないのが残念だと来会者の声を耳にした。

最後の「ハイスピードエンジン」と題する座談会も、講師陣に正木正教授の参加を得て、満場の拍手裡に終了した。

使命を果すべきであるとかたく信じます。
これがためには運當面に於て先づ第一に同窓諸君の声を直接にまた間接に広く聞く事であり、新らしい感覚に立つ会報を活用して隔々に伝える事でもあります。しかしして会員を地区別にまた各クラス別に組織して縦、横の密なる連繫のもとに本部に直結させる事が肝要であると考えます。

御通知

昭和三十五年一月一日午前十一時より東京歯科大学大講堂において、新年名刺交換会を開催致します。

同窓校友諸氏の御来会をお待ち致しております。

昭和三十四年十二月二十五日

東京歯科大学学長 福島秀策

東京歯科大学同窓会会頭

会員各位

河村 弘

退任御挨拶



西村 豊治

去る昭和三十三年十一月、全国支部長会の御推挙により、図らずも会頭として就任いたしました。今般任期満了、退任させて頂くことと相成りました。過般の支部長会におきまして、留任のおすめも頂戴致しましたが、老来いささか健勝を害し

枉げて辞任させて頂くことに相成りました。在任中、幸にして副会頭以下役員諸氏の御協力と、会員各位の御支援とにより、大過なく任期を果し得ましたことは、衷心感謝に堪えない所であります。この間、全国各地の同窓諸君より賜りました御懇篤なる御芳情に對し、厚く御礼申し上げる次第であります。顧みしますれば、この二年間、母校においては多年の念願たる大学院の設立を果し、光輝ある歴史に一段の光彩を加え得ましたことは御同慶の至りと存じます。また一面、奥村名誉学長の御長逝という悲しみにも当面致して参りました。ことに、今年六月施行されました全国参議員選挙に際し、同窓各位の熱誠溢るる絶大なる御支援の結果、鹿島俊雄君を議政壇上に送り得ました事は、大きな喜びであり、今更ながら会員各位の御尽力に對し満腔の謝意を表する次第であります。しながら、栄冠の陰に涙ありとは申しながら、熱烈の余り、不幸法の追求を受けるに至つた方々を、二、三にとどまらず見ましたことは、誠に遺憾の極みと存じております。選挙終了後直ちに、会員各位の御努力、御芳苦に對し、謝意を申し述べたいと存じてはおりますが、御承知の如く、法の許す所なく、心ならずも御不音に打ち過ぎて参りました。茲に改めて同窓各位の絶大なる御支援に對し深甚なる感謝を致す次第であります。不幸にして、司直の裁きの庭に立たれた方々、一日も速きに、晴天白日の日を迎えられんことを心から御祈り致します。幸にして、わが同窓会も次期役員に、河村会頭以下練達の諸氏を迎えるに至りました。本会の益々隆昌に、母校と共に弥栄えに榮えんことを祈念致し退任の御挨拶と致します。終に臨み、会員各位の御健勝を御祈り申し上げます。

昭和三十三年十一月十九日
西村 豊治

御挨拶

退任役員一同

私共は今般任期を終り退任致すことに相成りました。在任中賜りました全国会員各位よりの御支援に心から御礼申し上げます。



大内 英男
昭和二年 福島県
出生

現住所 文京区元町一ノ五 緑莊
小谷 虎次郎
明治三十四年 鳥
取県出生



昭和四年 母校卒
都南会代議員、九ノ内歯会副会長

現住所 千代田区九ノ内九ビル七階
七四九バトラー歯科開業
佐藤 徹一郎
大正十四年 東京
都出生



昭和二十八年 母校卒
母校保存学講師

現住所 東京都北多摩郡国分寺町六
九八
斉藤 寛三郎
明治三十二年 東京
都出生



大正十五年 母校卒
同窓会評議員、都南会代議員、文京区学校保健会歯科部長等歴任

現住所 文京区指ヶ谷町九二に開業
重浦 靖治
明治四十二年 東京都出生

新役員紹介

会頭



河村 弘
明治二十六年 東京
都出生
大正三年 母校卒

大正六年 米国イリノイ大学歯科卒
D・D・Sの称号を受く

大正十年 ベンシルバニア大学歯科
トロント大学歯科其の他に遊学
帰国母校講師就任

昭和十三年 日本補綴歯科学会会長
厚生省国家試験審議
会委員

昭和二十四年 牛込歯科医師会会長
昭和二十四年 母校評議員
昭和二十六年 都南会代議員
昭和三十三年 日歯会代議員
昭和三十四年 日歯会会計特別調査
委員長

現住所 新宿区南山伏町八に開業



副会頭
片山 清一
明治二十六年 大阪
市出生
大正四年 母校卒

大正七年 米国ジョージ・ワシントン
ン大学歯科卒業
大正十年 大阪歯科医専教授
現住所 大阪市東区南本町二丁目
に開業



副会頭
田丸 將士
明治二十九年 千葉
葉県出生
大正七年 母校校
定合格

昭和六年 日本連合学校歯科医会理
事

昭和九年 東京府歯科医師会理事
昭和二十一年 同会理事
昭和二十三年 北多摩歯科設立委員
現在顧問

昭和二十一年 都教職員適格審査員
昭和二十三年 医療制度調査会委員
昭和三十一年 法務省人権擁護委員
現住所 小金井市貫井北町五ノ七
四九に開業



副会頭
萩原 義雄
明治二十二年 長野
県出生
明治四十四年 母
校卒

昭和三十年 迄福島県歯科会会長現在顧問
及母校同窓会支部長
昭和三十四年 母校評議員
現住所 平市銀治町一六に開業

幹事 安島 宣忠
大正七年 茨城県出生
昭和十四年 母校卒 あそか病院勤

務、厚生省物資調
整官、麻薬統制官
總理庁技官歴任
現住所 新宿区新
宿一ノ一に開業



赤塚 康太郎
大正二年 東京都
出生
昭和十年 母校卒

同窓会渋谷区支部長
現住所 渋谷区円山町七九に開業



天野 博徳
大正八年 東京都
出生
昭和十六年 母校
卒

同窓会日本橋支部幹事、日本橋歯会
理事、同会学術委員
現住所 中央区日本橋室町一ノ六
に開業

母校九ノ内支部長
現住所 千代田区九ノ内九ビル七階
七四九バトラー歯科開業



大正十四年 東京
都出生

現住所 東京都北多摩郡国分寺町六
九八



大正十五年 母校卒
同窓会評議員、都南会代議員、文京区学校保健会歯科部長等歴任

現住所 文京区指ヶ谷町九二に開業
重浦 靖治
明治四十二年 東京都出生

会員の声

同窓会館を水道橋に

松井隆弘

同窓会が歴代、優れた会頭の下に、隆祥の一途を進んでこられたことに敬意を表するものである。毎回会頭が新たになるたびに色々と抱負なり、期待なりが、多大に寄せられるのであるが、任期の二カ年が終つてみれば、前歴を踏襲する程度が精一杯であつて、それ以上を望むことは無理ということになる。そこで提案したいのだが、同窓会員による社団を作つてはどうであらうか。同窓会が母校校舎の一隅に甘んじている程度が能てはなからうかと思う。同窓七千、八千の声も近い。もう同窓会館を学校に隣接して、土地家屋を買収して打ち建てる位の元氣を出せないものか。学校に隣接していれば倶楽部としても、集会場としても大いに有効であらう。宿泊の設備もするがよい。とにかく、東京のものも地方のものも、同窓会館をいこいの場所として、常に集まるということにしたい。

俱楽部である以上、やはり食堂を置く必要がある。同窓の子弟が多数に上京して勉学する場合、下宿に困ることも考えられる。四階建か、五階建として、この最上階を小個室として長期の出資者の利用に供するものと考えられる。要するに、もう一段の協力により、同窓会員による会館を持つてはどうかということである。定款による社団とすれば、財産権は出資者各人にあるので、解散の場合も出資額に應じた配分があるのて決して損はない。

一万か、二万の金を損したつもりで、ボンと同窓会に投げ出して置けば、百人で、百万か、二百万、千人で若干万か、式千万の金が集まる。これで、大きな顔をして、同窓会館にのり込めるとすれば、いいことではないでしょうか。段々と利益があれば、利益配当も、交通費か、役員手当の名目で受取ることも可能となる。どうでしょう、この辺で会館建設達成同志会でも作りませんか。誰か会員のうち積極性のある方の御賛同を。

お知らせ

一、同窓会員の学校においての接待方法を目下本部において検討中であります。

二、本会報にリ会員の声々を掲載致します。

三、本会に対して、建設的な御意見をお待ちしております。

以上の事項に関して、御意見および御忠告ならびに同窓会報への御投稿を期待しております。

本部宛お送り願います。

松宮教授米国歯科学士院会員に推薦さる

森本 優君

血脇賞を授与

去る九月、米国歯科医師会百年祭に特別講演者として招聘された本学松宮誠一教授は、米国歯科学士院会員に推薦され、FACDの称号記とガウンを授与された。

授与式は九月十三日ニューヨーク市の代表的ホテルである、ワールド

御挨拶

小生 儀

先般ニューヨークに開催の国際歯科医学会議ならびに米国歯科医師会百年祭に特別講演者として招聘をうけたかつ日本学術会議代表の一員として出席いたし、恙なく責務を完遂のうへ、さらに欧州諸国を視察後去る十月八日無事に帰朝仕りました。

茲に出発に際し、格別の御支援ならびに御高配を賜りました同窓会頭初め会各位に対し、厚く御礼を申し上げますとともに、帰朝の御挨拶を申述べます。

十月十八日 松宮 誠一

2頁より続く

ルフ、アストリアホテルに設けられた式場で朝野名士、各国代表など約二千名参会のもとに莊重に行われ、この日、新会員に推薦された欧州諸国の歯科大学長または知名教授二十名とともに、日本人として初めて松宮教授がこの榮譽をうけた。



昭和八年母校卒
中央総合病院歯科部長 都基金審査員、大日本歯科医学会副会長



現住所 渋谷区羽沢四七
関根 永滋
明治四十一年東京都出生
昭和五年母校卒、母校保存学教授



現住所 北区滝野川六ノ四二
堤 敏
大正四年東京都出生
昭和十五年母校卒、母校矯正学講師を開設



現住所 目黒区上目黒三ノ一八九八
開業
堀 真一
明治四十年東京都出生
昭和三年母校卒、日本橋歯会理事、都歯会国保特別委員長、政連支部長等歴任



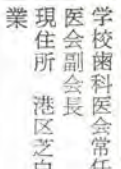
昭和四年熊本県出生
昭和二十六年母校卒、母校保存学講師



現住所 世田谷区玉川瀬田町八五六
會計監事
高北 義雄
明治三十二年東京都出生
大正七年母校卒、王子歯会会長、都歯会代議員、都民生委員、王子支部長等歴任



現住所 北区志茂二ノ三九に開業
地挽 鐘雄
明治三十二年神奈川県出生
母校検定合格、都歯会代議員、日本歯科医学会常任理事、都学校歯科医会副会長



現住所 港区芝白金今里町四五に開業

第七十五回 例会開催予告

左記の如く本会第七十五回例会を開催致します。

日時 昭和三十五年二月二十一日

(日) 午前十時より午後四時

河村弘新同窓会会頭の挨拶、ならびに同窓会会員の声を聴く。欧米視察旅行より帰国された大井清教授の帰朝談。関根永滋教授司会のもとに母校、会員諸氏を囲んでの歯槽膿漏治療に関する座談会等を予定しています。なお前日の二月二十日(土)には午後一時より東京歯科大学学会が開催されます。

多数会員各位の御来会を切望いたします。(演題申込みは、一月末日までに、本学米沢和一教授宛に四百字の抄録添付のうえ御申込み下さい。)

松山 茂樹

第六十五回 総会 会議事項

昭和三十三年年度庶務報告

自昭和三十三年一月一日
至昭和三十三年十二月三十一日

一、現在会員数 七、二一六名

二、名譽会員 九名

三、普通会員 七、二〇七名

四、新入会員 一七六名

五、退去会員 一七名

六、内訳 七四名

七、名譽会員 二名

八、普通会員 七二名

九、支部長、評議員会 一回

十、顧問、参事その他の委員会 一回

十一、役員会 一回

十二、昭和三十三年十一月三日第六十四回総会において会則中「第十九条本会に名譽会頭を置くことを得」と新に一条項を加え「名譽会頭は役員会の議を経、総会においてこれを推薦することとし、また会則第三十五条「会員の会費は一ケ年金五百円」とあるを「金七百円」とし同条中に「新に本会に入会するものは入会の際、会費三ケ年分を納入するものとす」の一項を加え、また会則第三十六條「本会に入会するものは入

幹事 岡本 俊雄

幹事 鹿島 俊雄

幹事 岡本 俊雄

幹事 岡本 俊雄

幹事 岡本 俊雄

幹事 岡本 俊雄

幹事 岡本 俊雄

幹事 岡本 俊雄

幹事 岡本 俊雄

幹事 岡本 俊雄

幹事 岡本 俊雄

幹事 岡本 俊雄

名譽会員 四方嘉治郎君
普通会員 田中 重雄君
秋山喜代造君
秋山 正元君
西本 佐平君
北川 修君
佐藤勘次郎君
中里大三郎君
鈴木 武夫君
木俣宗太郎君
平田新次郎君
田辺 定一君
五十嵐庫三君
山田 広重君
羽石 清重君
加藤 昇君
丸山 武雄君
武井 芳茂君
神永幾久雄君
吉田庫之助君
畑中栄太郎君
加藤 邦雄君
小池 今四郎君
箕田 定郎君
大沢 豊吉君
佐久間 穰君
阿部 五郎君
岡 馨君
長谷川晋一君
大橋 信君
桑原りでや君
古賀 伝蔵君
中井 道雄君
北洞 為治君
林 修三君
関田 芳治君
滑川 要吉君

石塚 三郎君
大須賀 彊君
猪鹿倉三郎君
戸塚 武君
石田益之助君
須藤 秀夫君
河崎 正信君
増田 喜一君
佐藤勘兵衛君
坂登 正夫君
長浜 茂樹君
皆川 俊夫君
折井 士郎君
天沼清之助君
本目 保吉君
浅倉 正博君
白井喜十郎君
田部井 道君
花沢 昇君
鈴木 善吉君
松本 保雄君
高橋 成章君
中保 仁久君
堀 卓夫君
大林 演治君
岡部 重賢君
松尾 軍兵君
丸山 清吉君
浜田 良太君
関口 量平君
中島 英男君
菅野金一郎君
渡辺 俊雄君
玉木圭二郎君
伊藤 太吉君
長岡 侑吉君

図書館だより 第一号

最近母校図書館で新規購入した図書
書を会員の方々に知らせるため
に「図書館だより」を掲載したいと
思います。
診療の間に気持のよい新刊図書の
感覚と昔なつかしい、母校の学風を
大いに味わつていただきたいと存じ
ます。左に列記したものは最近図書
館で購入した専門書の一部です。
「和書」
基礎歯科学 藤田恒太郎 歯の異常と奇形(歯
科写真文庫六) 昭三三
臨床歯科学 河辺清治 局部床義歯各論一(デ
ンタル・アルバム四) 昭三四
一八 永末書店 昭三四
総山孝雄 メタル・インレー改訂
版 昭三四
九 医歯薬出版 昭三四
坂村友三 下顎骨折の救急処置
(歯科写真文庫三) 昭三三
三 医歯薬出版 昭三三
医学 懸田克躬等著 新英和医学辞典
三三 医学書院 昭三四
岡本耕造 顕微鏡的組織化学
四三 医学書院 昭三四
中田勇 病理解剖観察法とその手
技 一五 医学書院 昭三四
慶応義塾大学医学部病理学教室
病理組織標本の作り方―その実
際と要領― 一六 医学書院 昭三四
福島秀雄 病原微生物学 細菌編
九三 医定書院 昭三四

最新薬学大事典編集委員会編 最
新薬定大事典 一アース 二セー
モ三ヤーク 付録、索引
五六 誠文堂新光社 昭三四
厚生省保険局健康保険課編 健康
保険法の解釈と運用 社会保険法
規研究会
南江堂 国民医薬品 集註解 一
九五九 第二改正 A一六昭三四
高木敬次郎、小沢光 薬物学上、
下巻
五七 南山堂 昭三四
微小電極研究班編 微小電極法の
手引き
八一 金芳堂 昭三二
吉井直三郎、堀浩編著 最新の筋
電図学 八二 永井書店 昭三一
真島英作 医学論文と図表の書き
方 一二五 文光堂 昭三二
沢湯久敬 医学概論 第三部医学
について 一 創元社 昭三四
Swenson, Merrill G. & Stout
Charles J. Complete Dentures. 1959.
62p.
Swenson, Merrill G. & Terka,
Louis G. Partial Dentures. 1959. 389p.
Bernier, Joseph L. The Management of Oral
Disease. 2nd ed. 1959. 875p.
Fish, E. Wilfred Surgical Pathology of the
Mouth. 1952. 463p.
Adriani, John Fundamentals of General
Anesthesia for Students and
Practitioners of Dentistry.
1959. 213p.

(以下次号えつづく)

各地同窓会のうごき

近畿連合同窓会大会

晩秋の古都に澄みきつた空と爽涼の冷気がみなる十一月二十二日午後一時京都市役所前に京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の近畿同窓会員約百六十名が集合二台の観光バスに分乗、新装なつた比叡山及び東山ドライブウエイに向う。

数多き史跡、それにまつわる文化の遺産と長い歴史の香りの中で典雅な趣をただよわせ、自然とくけ合っている京都の観光、山と水との調和のある雄大な琵琶湖の眺めを満喫し夕暮今日の会場「都ホテル」に青く。

校歌合唱に始まり奥村前学長並びに逝去会員の追悼黙祷を行い、柏井京都支部長の開会の辞、次で河村新会頭の就任に際して今後同窓会運営の基本方針は自主的に民主的に行う、広く同窓の声を拝聴し、自分を育ててくれた学校、また自分達が作り育てて行く同窓会、この様な親しみと温みのある母校であり、同窓会である様に努めたい。

これには、會員諸氏の絶大なる御支援と御鞭撻を賜りたいとの御挨拶が行われた。

次で榎本名誉会頭より過日の選葬に際して同窓各位より寄せられた、御温情に對し心よりの謝辭があり、また福島学長より母校の近況等についての御挨拶が行われた。

近畿支部長を代表し岩鶴大阪支部長より水道橋精神を旨とし団結、母校愛に燃える近畿同窓会会員は一人一人が母校及び同窓会に直結し、明日への志望は炎の如く騰り、母校同

窓会の発展には最善の努力を払うとの挨拶があつた。

会場は、きわ傑として輝きを増した。T・D・C精神一色に染りつづされて行った。一方この頃より京情緒書きか新興とともに宴会はつづけられ、最後に片山新同窓会副会頭の万歳の発声で名残りつきない本大会を開じた。なお次期開催地は奈良県と決定した。

兵庫県支部

十一月例会

菊花薫る十一月八日(日)宝塚地区会員の世話で、午後三時より宝塚第一ホテルで例会を開催、集うもの老若三十五名、まづ物故会員に対し黙祷の後、塚本支部長より選挙後報東京に於ける支部長会議の様様報告、杉村氏より次議員会の報告等あり、これにつき会員より活潑な意見の発表があり、又沢田氏よりの此後の例会は多数会員を擁する神戸を中心にして東西三地区に分け、各当番地区はその特徴を発揮し単なる会合でなく意義あらしめたという希望があり、会員之に賛成し、次回は姫路地区が担当することに決定した。懇親会に移り、すきやきに舌鼓を打ち否を乾し和氣堂に満ちた。午後九時散會。

(石田英二記)

静岡県支部学会

静岡県学会は十一月十五日（日）母校より杉山不二先生を迎えて清水市教育会館に於て開催された。去る十月東海四県連合学会の直後の事としてその出席を気づかわれている。

たが、当日に至れば地元幹事の杞憂は完全にふつとんで東西より馳せ参ずる会員の予想外の出席率に係は盛しい悲鳴をあげる仕末。

午後一時開会、講演に先だつて徳永支部長より今回の伊勢湾台風による會員の罹災状況の説明があり、これに対する見舞金醸出の件につき各位の協力を求めるの談あり、その他報告があつて杉山教授の講演に入る。

先づ最初は「母校に於ける齒蘭処置」と題されて極めて臨牀的な興味深いお話を二時間に渉り拝聴、休憩後次の「欧米旅行雑感」と題されてお話には天然色スライドによりストーリーに映写される異国の風物にしばし陶然として一同は時の経つのを忘れた。

やがて五時玉川楼における宴会の準備なつて懇親会に入り徳永支部長の音頭にて母校並に静岡県支部の発展を祝して乾盃、地元美妓連の「チャッキリ節」「次郎長踊り」に始つて会員諸君の隠し芸の披露等親睦の



宣はいつ尽きる時とてなく、出席者五十余名の盛会の裡に本年学会の全行事を終了した。

当日の出席者

佐塚、塚田、宇佐美、田川、栗田
森田（博）、小川、土屋（謙）、西
尾、笹本（平）、土屋（勝）、高橋
小野田、関口、植田、早川、徳永、
宇藤、大藤、大内、坂本、松下、鈴
本（孫）、内田、市川、森田（徳）、岡村
赤堀、大沢、大畑、河村（秀）、平
岡、板倉、新保、桑原、丸山、河村
（孝義）、益子、佐々木、河村（三）
兄島、朝浪（鷲）、鈴木（秋）、杉
山、大野、田村（清）、田村（領）
河村（孝昭）、木村、下村、朝浪。
（朝浪惣一記）

神奈川支部

一、日時 昭和三十四年十一月二十九日午後三時～同八時半

一、場所 横浜市、神奈川県歯科医師会館

出席者六拾有余名
一、状況、学校より福島学長、齊藤山本両教授臨席せられ学長より最近の学内事情の説明あり、小生は同窓会の動向について説明する。
中田氏より学校の債務解決の手段として学債を募集しては如何、そのことにつき同窓会より学校に交渉せられたい。

なお会費未納会員に對しては事情を考慮せられ寛大な措置を講ぜられたいとの意見あり、之に對し榑原氏より会費は百分徴収するの爲當然であるから原則を忘れないで欲しいとの反論あり、何れも承つて置きました。

総会終了後「和可な」で懇親会あり、八時半散会。

愛知県東三豊徳会

わが東三豊徳会は去る五月に規約により定時総会を蒲郡市四海波で開催したが、當時丁度選挙の行われている折柄であつたから専らそれに総力を集中して、役員改選の件は後日臨時総会をもつてとり行うべく保留とした。その臨時総会を素晴らしい秋晴の十一月一日豊橋市白山会館において開催す。会員各位には午前十時開会の通告をしてあつたが余りにも快晴で夫々の予定もあつたもののか参集がおくれ十一時に開会す。出席者は西村祐治会長以下二十三名。会は型の如く会長の挨拶、庶務會計の報告のあつたあと、中部日本放送豊橋支局の山田局長の放送楽屋話の趣味講談を一時間拝聴し、九月の伊勢湾台風のとだけに極めて質素に昼食を共にし来賓のかえられたあと、中心議案である役員改選の件につき協議に入り、西村会長の辞任の件を一同諒解し西村氏の推せんする曾田真一氏に新会長をお願いし、曾田氏の御承認を頂き、副会長以下の幹事については新会長に一任し、暫時休憩の後、次の諸氏指名、規約に従い今後二カ年間は曾田先生を長とする幹事会で東三豊徳会は運営されることになつた。

即ち副会長今泉勝、鈴木信義、幹事岡本保和、彦坂武、山本弥市、藤城易都、惣卜貞男、平野裕、高田敦

孟 菅沼孝夫

本総会の庶務報告の中で九月二十九日母校助教教授高橋庄二郎氏が学長同窓会頭の代理として十五号台風の被災見舞に本会を御来訪下さったこと、又遠く外地より当地出身の大井教授が、十月二日付で見舞状を寄せられたことを報告披露いたしましたところ会員一同深い感銘をうけたことを付記する。

(庶務幹事報)

クラス会便り

三辰会第28回総会記

十一月三日の第65回同窓会総会の当夜、五時から、昨年度と同じ、信濃町慶応病院前のホテル松平、日本間の大座敷において開催された。



石井(次)氏、四国は久米氏、長野の村居氏、群馬の関根、宮原の両氏一ノ宮の滝氏などの遠来の友を迎え、その外に、加藤、酒井、鈴木(三)清水、新沼、大久保、城谷、米沢、石井(一)、佐藤(正)、郷土、吉永、田中(勝)、徳坂、松井、根岸、関口、以上の諸氏であつた。心ゆくまで歓を尽し、八時散会した。

(幹事記)

更始会

(昭和三年卒)

母校を卒業してもう三十二年目お互にロマンスグレーでもう孫の話まで出る頃、一年一度の楽しいクラス会は去る十一月三日の同窓会総会を期に神田菊水にて開催、今年も東京を中心に近県の者に案内をしたが、それでも水戸の田沢、土沢の萩沼、千葉の山崎、秋山、平山、埼玉の清宮、横浜の片岡の諸君の出席を得て総勢二十名、先づ山路、似鳥両君の学位受贈を祝福して乾杯し、伊勢湾台風で多大の被害を受けた齊藤義太郎君に対する御見舞品を贈ることを決めてから宴に入つた、杯を重ねるに従つて若き水道橋時代の話が咲いて仲々の気遣、来年はもつと盛大にやろうと契約し記念撮影をして母校の発展を祈つて散会した。

(堀 真一記)

堅久会

本年の級会は御承知の如く十一月二日夜、楽々で行い三十余名集まりました。

新会則案の提出あり幹事制をやめた新会則に決まりました。会計、庶務は引き続き佐藤知也君に決まり、椰子の奥の発行も担当します。精しくは椰子の奥に載ると思います。諸兄の御健闘を祈ります。

(高橋記)

壬戌会

十一月三日、今年も在京会員が中心となり、遙々上京した級友と共に新宿で一夕旧情を温めた。

出席者、平山(栃木)荒井(千葉)井崎(横浜)谷、佐々木敏夫、齊藤亮治、石原、上原、古川、江幡、谷本、日吉、鈴木、井上、石塚(敬称略)の諸君十五名。何れも青年時代の意気揚々として未だ消えず、互に将来の抱負を語つてなかなか盛会であつた。

尚、今年六月、在阪神会員の多大の御骨折によつて開催された全国大会の天然色八ミリ映画を藤井博君の御好意で送つて頂き、これを上映、画面に現われる級友の元氣な姿に一同心から喜んだ。重ねて在阪神の諸兄に感謝の意を表します。

(石塚)

天心会

吾々はいつか四十男の仲間入りをしてしまつた。心の中にあるものは三十になつても四十になつても少しも変つてはいない。喜んだり悲しんだり怒つたり笑つたり二十年前と少しも変わらないままに女房が船をとり子供が大きくなり周囲の有様はどんどん変化して行つてしまふ。

それでも本当は、吾々は少しも変つちやない。

それを知つて居り、又お互に認め合つて居るのが、昔の仲間天心会級友だけのものだ。近年集りが年々盛大になり、珍客も顔を出す様になつたうか、大いに集るべし。

本年は卒業満二十年になる。これを記念し関西級友の絶大なる御取計いで記念大会を京、情緒豊かな古い都京都に開催、友遠方より来る。一會員四十、家族二十一名で春の一夜に陶酔し、翌日は数多き史跡や、これにまつる文化遺産を長い歴史典記念品を分ち二十五年、三十年の再会を約し別れを惜しんだ。

十月東海地区を襲つた台風により金子、村松、三宅、吉田の四君が被害を受けられた。

心より御見舞を申し上げたすらいの十一月二日早からん事を祈る、恒例の十一月二日旭祭に於て総会を開催遠く長、仲西、曾根、前岡の諸兄を迎え、春の京都の思い出の実況及び前岡自作自演の八ミリを上映大女評九時半散会する。又師走早々十二月五日熱海に於て忘年会を開催一夕を過ぎ翌日箱根、真鶴岬へと三々五々散会、卒業二十年のよき年を心行く迄たのしんだ。

尚卒業記念二十年、家族アルバム編集の件は目下進行中ですので至急写真一葉を御送付願います。

(安嶋記)

申齒会

菊香る十一月三日快晴には恵まれなかつたが暑からず寒かふず真に凌ぎよい日和であつた。午後四時過ぎ茨城県の萩谷良君の一番乗りが続い

て三々五々。

午後五時には出席予定者の殆んど全員が顔が揃つた。重役タイプあり見事な白髪あり然し大部分の頭髪は当世ご婦人にもてるころのロマンスグレーだ。

途中偶然逢つたとしても一見誰か思い出せない程変つて居るもの、二見三見矢張学生時代の顔でありである。

きせずしてお互の心に懐かしさがこみあげてくる。恩師齊藤久先生を中心記念撮影の後宴会に移る、飲むほどに酔うほどに益々懐旧談に花が咲き、お国名物まで飛び出し会は何時ではとぞ知れないが再会を約し午後九時散会。全員再会は出来なかつたが、北は青森から西は神戸に亘る各地から三三名参集したことは稀なる盛会と言得よう。

卒業時吾々クラス会員は一二〇名であつた。今日まで不幸逝去された會員三四名。

現在活躍中の會員八六名。今クラス会の案内状発送数八五通。内返信を頂いた會員出席三二通欠席三一通他二〇名の方からは遂に御返事を頂けなかつたのは残念である。

今後せめて往復はがきの返信位は御投函願いたい。尚鈴木重世君、原田実君は住所不明にて送達されました。御存じの方は世話人まで御通知下さい。爾今クラス会の世話人として東京光永友紀、川北茂徳、本間守中、大曾根晋夫、関西猪坂逸治の五君に御願ひすることに決定しました。

電を頂いたことを出席者一同に褒め御礼申し上げます。
ではまた逢う日まで各位の御健闘を祈る。

仁 蜂 会

(氏家記)

○ クラス総会―クラウンで乗付けた関西勢をはじめとし各地より集るもの三十二名、新博士、吉峯、岡村一夫両君に記念品贈呈した後、一夜の欲を箱根路福住楼で尽し、再会を期し散会。

○ 二十周年記念「九州旅行」―本年五月ゴールデンウィークに待望の三泊四日(別府一泊総会、阿蘇を経て熊本一泊。天草を経て雲仙または長崎一泊後解散、費用見積約二万円以内)の旅行を総会で決定しました。参加見込は目下の所約四十一五名。いづれ詳報致します。

○ 故高橋郁夫君弔慰金二万四千円(四十八口分)および関西有志分一万円計三万四千円の弔慰金を仏前に献じました。十一月に愛知、堤両幹事が慰問のため高橋未亡人を訪問しました。諸兄の御協力を感謝します。

○ 東京例会―九月二十四日夜、福島学長を囲み、新橋「那覇亭」で平君の肝入の沖繩料理と踊を満喫。

○ 十月十二日夜数寄屋橋「ニュートキョ」九階に鹿毛君の配慮で中国料理に忘年の宴を張りました。

○ 関西例会―十月四日夜神戸三宮「沖繩」でハブ料理を賞味亡き高橋君の追憶に花咲かせました。

十二月忘年会には山下君のクラウンに小出君のオースチン加えて木村君のブルーバートと三車揃って賑やかに年の瀬の一夜を過しました。

○ 新年会―例によって東西で相呼

応して開かれます。多勢参加を。(堤記)

一 期 会

師走の声をききますと、急に年末のあわただしさを感じられますが、全国一期会の諸兄にはいかがが過しでしょうか……

菊薫る十一月三日には、かねて御案内の通り、文京区「武蔵屋」で第七回一期会中央本部会を開催致しました。本年三十名という盛会となり仲居さん達の「糸」に合わせてくりだされる似鳥君の水際だった立派な「芸」の御披露もあり、本当に楽しい一時を過ごすことができました。



さて、今回の一期会で、出席者全員及び役員の総合意見によりまして伊勢湾台風で甚大な被害をうけられた青木、神谷、都築の三兄に対し、会員一名当り三百円以上の義援金を出し願うこととなり、当日の出席者全員は既に頂戴済みとなりました。つきましては当日止むをえず御出席なされなかった中央本部地区の

諸兄及び各地方区の諸兄には、いづれ改めて御願いの御便りを申し上げますが、その節には何分よろしく御了承下され、御協力下さいますように御願ひ致します。

尚、明年は、第二回一期会総会開催の年に当たりますので、この件につき御意見を伺いましたところ、十一月三、四日にわたって、箱根方面で行うことに大体決定致しました。どうぞ明年こそは全員が久しぶりに遠出して大いに鋭気を養いたいものといふから楽しみにしております。

(見明記)

第七回一期会中央本部会出席者。西山、安江、安藤、中村、山本(勝)、小池、香山、津島、中川、相田田所、佐藤(徹)、関根、畦森、羽賀、北原、石塚、神尾、福田、佐々木、似鳥、小菅、倉繁、尾上、岩井原、西村、大御、田口、見明。

い ず み 会

菊薫る十一月三日、神楽坂「一平荘」において恒例のクラス会を開催いたしました。

当日寄り来る者、遠くは北海道の星井君、広島原田君をはじめ四十三名、近來稀に見る盛会でした。牽牛、織女ではないが年に一度の顔合せ、積る話に花を咲かせ、和気藹々時のたつのも忘れて盃を酌み交し、その間、北村幹事の胆入りで、大変芸術的な Show などが飛び出したりして頭が薄くなったのも忘れこわい山の神も、嫌な健保のことなど打ち忘れて、楽しい一夜を過しました。

なお過日お知らせしましたが、クラス会名簿作成のため最近の諸兄の動静を調査しましたが、その資料が未だ半数に満たず困っております。未だお知らせのない方は、至急御返



三、水害見舞として稲垣、梶原両君に各三千円を送る。以上
〔三十三年度決算報告〕

収入
前年度繰越金 四九、二九三円
33年度維持費 二〇、二〇〇円
合計 六九、四九三円

支出
通信費 九、〇〇〇円
名簿印刷代 六、五一〇円
今西君銭別 一、一六〇円
幹事会費 二、五〇〇円
交通費その他 三、五〇〇円
合計 二二、六七〇円
差引残高 四六、八二三円

会員近況!!
一、クラス会にて決議しました見舞金を前記三君に送付しましたところ梶原、稲垣両君から礼状と共に元気でやつてゐる由の便りが五期会あて参りました。
二、今西君の新住所
Dr. T. Inanishi,
78 Westland Ave.
Boston 15, Mass. U.S.A.

事を下さい。
また、会報並びに名簿作製のためその経費も嵩みますので、年度会費未納の会員は、至急御送金下さいませようお願いします。向寒の折、諸兄には、御自愛、御自重あらんことを祈る。
尚、次年度クラス会幹事は中村正中野年朗の両君にお願いすることにいたしました事を追記し、わが「いづみ」会の発展と、会員諸兄の御繁栄のために、尚一層の御協力を御援助を賜わらんことをお願いして筆を擱きます。

追 伸

十一月二日、銀座スエヒロにおける第三回五期会も五十四名の出席者を迎えて盛大に行われ、幹事一同、心から喜んでいる次第であります。尚、当日次の如き事項が決議されましたが御諒承下さい。
一、幹事として石川、落合、竹内、山本(陽)、吉木の五名を選出。
二、病氣療養中の藤代君に見舞金として金五千円を送る。

学位受領者紹介

佐藤直房 (さとうなおふさ)



厚生省診療所歯科主任の同博士は、去る七月六日の慶大医学部教授会を原島教授主査の下に論文通過、八月六日付をもって学位記が授与された。博士は明治四十年七月十日生、福島県須賀川出身で、昭和七年本校を卒業、直ちに副手に採用されて口腔外科遠藤教授の下で研究(歯科医籍登録第一八七六七号)翌年四月には助手、翌年四月補綴学教室助手として転部、昭和十年三月、退職され、新宿柏木に口腔外科を標榜して開業、今回の戦災を蒙るまで非常な盛業ぶりであった。しかし、医院焼失後は、一時、多摩川病院に勤務されたが、昭和二十四年十月からは厚生技官として現職に就かれ、昭和三十年四月からは本学衛生学教室に研究生として入室され、当時の土屋助教が直接指導にあたり、その後、上田教授が新しく着任され、引続き熱々と研究の歩を進められた。主論文は「唾液カルシウム濃度の変動要因に関する研究」であつて(口腔衛生学会雑誌第九巻、第一号、昭和三十四年三月)外に参考論文四編である。唾液と虫歯の関係を解明された。謹祝。

中山順弘君 (松井隆弘記)



ナカヤマ・ユキヒロ君は東京生れの四十五才。昭和十二年母校卒業から研究科に進み臨床を一巡された。一旦応召されたが同十五年補綴部助手として母校に復

床を一巡された。一旦応召されたが同十五年補綴部助手として母校に復

帰する。同十八年、敬父が経営されていた神田の内科病院に歯科部を併設されたが、強制疎開で愛知県下に都落ちされた。同二十三年春上京。千代田区麹町一四、竹工堂ビルに診療所再開。令兄に当る千葉大、中山外科の恒明教授のご縁もあつて、同二十七年専攻生となられ、歯科並に付属腐敗研究所に通学せられることとなつた。蜜雪の功成り、昨年七月七日の同大学教授会にて、主査・相模和嘉(腐研)、副査・佐藤伊吉(歯科)両教授のもと満場一致論文通過。越えて九月十四日付、榮ある医学博士の学位記が授与された。

新博士は豊島区池袋三一六三七の自宅から前記診療所に通勤されて至極ご健在。お宅には広子夫人の外に一女あり。令兄恒明教授は、外科界での世界的泰斗で、今般学術会議会員にご当選、舎弟喜弘博士は慶大出身で九段坂病院小児科医長、義兄は同窓・関野格郎博士といった学究一家である。慶祝。

(米沢和一記)

○主論文 魚肉によるヒスタミン中毒の研究日本衛生学雑誌十三巻三三三(昭和三十三年八月) 以上



佐藤君と同期の昭和二十二年三月母校卒業、二十三年在朝霞の米國第八軍第一騎兵師団

司令部病院の歯科医長として勤務すると四年、同所を辞し自宅開業と同時に教室の田熊助教を慕つて私の教室に専攻生として入室、専ら電子顕微鏡室において研究を続けておられたが、その研究態度はきわめて真摯で、深夜に及ぶことが常であつ

た。

去る五月完成した論文を学位請求論文として東京医科大学に提出大高裕一教授主査のもとに慎重審理が行われた結果九月十六日めでたく同大学教授会を満場一致で通過、こゝて十一月五日付にて榮ある学位記を受領された。慶祝

現住所変更(敬称略)

- 大森 清弘 (28) 世田谷区北沢五ノ六三九
- 井川 重利 (23) 清水市下清水四九
- 荒川 英男 (33) 東京都北多摩郡保谷町下保谷四四三
- 長谷川 二郎 (32) 杉並区荻窪四ノ五
- 馬島 博 (26) 松山市河原町一二
- 金丸 和夫 (29) 三鷹市牟礼三二二
- 中尾 英三 (15) 兵庫県洲本市下屋敷町乙三五
- 野村 有市 (23) 杉並区香掛町二三
- 羽田野 義彦 (19) 豊橋市羽田町九
- 吉木 周作 (32) 渋谷区千駄ヶ谷二
- 増田 哲男 (33) 札幌市琴似町宮ノ森一二
- 原 一学 練馬区上石神井二
- 足立 深 (33) 川崎市市ノ坪下橋場五八八
- 丸山 茂 (26) 豊橋市神明町一〇
- 小松 辰雄 高知市水通町三〇

神谷 昭夫 (34) 静岡県浜名郡庄内村柳三六二

加藤 秀夫 (27) 桐生市新宿通二ノ五一五

山口 和夫 (24) 武蔵野市吉祥寺二八五二

魚住 清隆 (16) 熊本市神水町一八五

今井 良男 (3) 香川県大川郡長尾町昭和初音三丁目

田所 暢康 (32) 杉並区馬橋二ノ二

菅原 佑典 (33) 八王子市横山町二ノ二七

加藤 孝一 (11) 名古屋市中区希

浅井 康宏 (33) 世田谷区玉川中町一ノ一七

向山 正秋 (13) 中央区日本橋本町一ノ八

野本 昭邦 (23) 豊島区池袋五ノ一

柳沼 彦恵 (3) 江戸川区小岩町四ノ一四八

片岡 祐吉 (16) 熊本市田崎町南原二二二

入学案内

【東京歯科大学】

- 一、募集人員 進学課程第一学年一、二、三名
- 二、修業年限 六カ年
- 三、受験資格 高等学校卒業程度
- 四、試験科目 (イ) 数学、次のA、B、Cのうち一つを選択のこと、A、旧教育課程解析一、B、旧教育課程幾何、C、数学一(統計を除く)および数学二(空間図形を除く) C、数学一代数(統計を除く) および数学二(変化率を除く)

(ロ) 理科(物理、化学、生物、地学のうち2科目)

(ハ) 外国語(英語、ドイツ語、フランス語のうち1科目)

(ニ) 国語(国語甲)

五、試験期日 昭和三十五年三月一日(火) 二日(水) 三日(木)

六、試験場 千葉県市川市菅野東京歯科大学進学課程

七、願書受付期間と場所 昭和三十

五年一月十一日(月) から二月二

十六日(金) までに東京都千代田

区神田三崎町東京歯科大学専門課

程へ、入学案内ならびに願書は、本

学専門課程教務部および進学課程教

務係まで、金三十円也と返信料十円

切手ならびに返信用封筒同封のうえ

申込まれたい。

【衛生士学校】

- 一、募集人員 三十名
- 二、修業年限 二カ年
- 三、受験資格 高等学校卒業程度(但し三十才未満の女子に限る)
- 四、試験科目 (イ) 数学、次のA、Bのうち一つを選択のこと、A、改訂課程数学一代数(統計を除く) B、図形一般数学(統計および空間図形を除く)
- (ロ) 英語、(ハ) 国語
- 五、試験期日 昭和三十五年三月十六日(水)、十七日(木)
- 六、試験場 東京都千代田区神田三崎町東京歯科大学衛生士学校
- 七、願書受付期間と場所 昭和三十
- 五年一月十一日(月) から三月十二日(土) までに、東京都千代田区神田三崎町東京歯科大学衛生士学校へ、入学案内ならびに願書は、本校教務部へ、「東京歯科大学衛生士学校入学試験要項」と明記のうえ、金三十円也と返信料十円切手を同封して申込まれたい。